

講座『みんなで町の自然を調べよう～秋の七草の分布しらべ～』及び学習参考資料展『みんなで調べた 大磯町の花と実 2012・秋』の実施報告

* 北水 慶一

1. はじめに

大磯町郷土資料館では、前年度、前々年度に引き続き教育普及活動事業と企画展事業を連動させた企画を実施した。教育普及活動事業に位置づける植物の分布調査と企画展事業とを組み合わせさせた企画である。これまでに春、夏と四季の順に植物調査を進めてきており、本企画では秋の植物を対象とした。企画の進め方は、春、夏の植物調査の企画と同様に調査と展示とをセットとして進め、企画展会期中にも調査を行ない、その都度、調査の結果を展示に反映させるやり方で進めた。本稿では企画の進行を紹介するとともに一連の調査の結果を紹介する。

2. 講座『みんなで町の自然を調べよう～秋の七草の分布しらべ～』の実施

2-1. 調査方法

1) 調査員

調査員は植物調査に慣れている方、不慣れな方を問わず、町広報で募集し、参加者を募った。呼びかけに対して大磯町及び近隣市町在住の 26 人の方々にご応募いただいた。

2) 調査期間

調査期間は 1 年間で 24 の時期に分ける二十四節気をもとに、立秋（8 月 7 日）から立冬の前日（11 月 6 日）までを調査期間とした。

3) 調査対象の植物

調査対象の植物は調査参加者との話し合いのもと、15 種類程度に絞り込むことにした。秋の植物として、一般的によく知られる「秋の七草」、瘦果がくつつき虫として知られる「キク科 センダングサ属の植物」の 2 つのグループを最初に候補とした。「秋の七草」は萩（はぎ）、薄（すすき）、桔梗（ききょう）、撫子（なでしこ）、葛（くず）、藤袴（ふじばかま）、女郎花（おみなえし）の 7 種類であるが、このうち萩、撫子はそれぞれの属の総称であるため、ハギ属からマルバハギ、ナデシコ属からカワラナデシコを選び、調査対象にすることにした。

「キク科 センダングサ属の植物」について、大磯町ではアメリカセンダングサ、センダングサ、コセンダングサ、コシロノセンダングサの他、コセンダングサとコシロノセンダングサの雑種であるアイノコセンダングサが確認されている。調査対象植物の選定の話し合いにおいて、アイノコセンダングサは



図 1 調査の様子

コセンダングサと見分けづらいものがあり、コセンダングサに含めた方がよいのではと意見が出た。協議を進める中、多くの方々がその意見に賛同されたため、アイノコセンダングサをコセンダングサに含めることにした。このため「キク科 センダングサ属の植物」についてはアメリカセンダングサ、コセンダングサ（アイノコセンダングサを含む）、コシロノセンダングサ、センダングサの 4 種類を対象とした。

続いて、「秋の七草」、「キク科 センダングサ属の植物」以外の調査対象植物について意見交換をした。最初に調査参加者の皆さんに意見を出していただき、オオブタクサ、ブタクサ、セイタカアワダチソウ、エノコログサ、イシミカワ、イヌタデ、ママコノシリヌグイ、ツリガネニンジン、センニンソウ、イヌホオズキ、ワルナスビ、ヒガンバナ、カラスウリ、ヒヨドリバナ、サクラタデの計 15 種類が候補としてあがった。種類の絞り込みをする中で、調査の意義について意見が及び帰化植物を中心に選出する方向へと傾きかけたが、最終的に散策最中、見かけて印象のよい植物を選出することでまとめ、イヌタデ、カラスウリ、サクラタデ、センニンソウ、ツリガネニンジン、ヒガンバナ、ヒヨドリバナの 7 種類を対象とすることにした。

4) 調査方法

調査は合同調査、個別調査の 2 種類の方法で実施した。

合同調査は種の見分け方や確認できそうな環境等の情報交換を目的に調査期間中に 4 回行なった。運動公園や大磯駅等参加者が集まりやすい場所に集合し、巡回後また同じ場所で解散できるようにコースを組んだ。個別調査では大磯町を 17 の区域に分け、それぞれの区域に担当者をあてて、都合のよい時に巡回できるようにした。本調査で巡回したコースは図 2 に示すとおりである。

(※ 当館学芸員)

2-2. 調査の結果

それぞれの調査の結果は、図3から図18のとおりである。地図上に確認したポイントを赤い丸印で示している。実際の調査では確認した場所で株数を数え、10株以上と10株未満の場所では表記の仕方を変えたが、本稿の図では、特に区別をせず、確認したポイントのみを紹介している。

1) 秋の七草の分布

カラナデシコ、キキョウを除いて5種類を確認することができた。マルバハギは丘陵地の道路沿いで確認することができた。ススキ、クズは丘陵地の道路脇や河川沿いで非常によく見られた。フジバカマは植栽していたものが逸出したものではないかと考えられる。オミナエシは1990年に当館主催行事「大磯町・二宮町の身近な生き物調査」の対象生物として分布状況を調べたが、その時は本町では全く確認できなかった。今回の調査では3箇所記録されたがフジバカマと同様に植栽していたものが逸出したものではないかと考えられる。近年、本町では野生のものは全く確認できない状況である。

2) キク科 センダングサ属の植物の分布

センダングサを除いていずれも丘陵地を中心に確認することができた。コセンダングサが最も多く、続いてコシロノセンダングサとアメリカセンダングサが多かった。今回の調査ではアイノコセンダングサをコセンダングサに含めて記録を取った。調査をとおして感じたことであるが、コセンダングサとアイノコセンダングサとで確認株数を比較した場合、

おそらくアイノコセンダングサが多いのではないかとと思われる。次回、調査する際は、コセンダングサとアイノコセンダングサとを分けて調査を進めていきたい。また、センダングサについては、当館主催のワークショップ「草と木の調査～秋の植物分布調査～」で1999年、2000年に調べた時は全く確認できなかったが、今回は確認することができた。引き続き今後の推移を観察していきたい。

3) 調査会で選んだ秋の草花の分布

7種類ともに確認することができた。

特にイヌタデ、カラスウリ、ヒガンバナは非常に多かった。イヌタデは町内の空き地や畑で多数確認できた。カラスウリは夜間に開花が見られるので、調査を行なった日中はつぼみ、もしくは花がしぼんだ状態であったが、丘陵地の道路沿いでは、連続して見られた。ヒガンバナは田畑の他、市街地でよく確認できた。近年、本町では白花のシロバナマンジュシャゲがよく見られるようになっている。今回の調査ではヒガンバナにシロバナマンジュシャゲは含めていないが、今後、増えていく傾向がみられるようなら、分布の状況を記録していく必要があると思われる。

サクラタデについては、調査当初は谷戸に普通に見られるのではないかと考えていた。しかしながら、そのほとんどはシロバナサクラタデであった。本町全域を巡回し、唯一、生沢の2箇所を確認することができた。このことは貴重な情報として記録しておきたい。



図2 巡回したコース

大磯町1995年発行「大磯町全図（1万分の1）」の地図を縮小して使用



図3 マルバハギの分布



図4 ススキの分布



図5 クズの分布

※ 32～36ページの地図は、いずれも大磯町1995年発行「大磯町全図（1万分の1）」の地図を縮小して使用



図6 フジバカマの分布



図7 オミナエシの分布



図8 イヌタデの分布

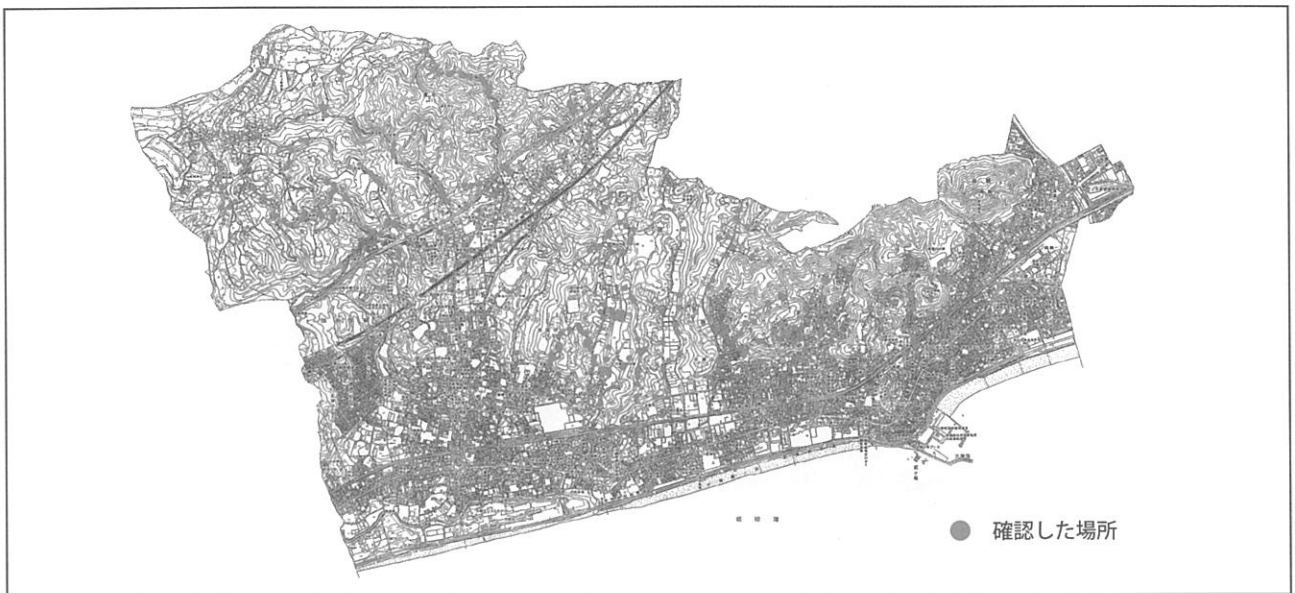


図9 カラスウリの分布



図10 サクラタデの分布



図11 センニンソウの分布



図 12 ツリガネニンジン分布



図 13 ヒガンバナ分布



図 14 ヒョドリバナ分布

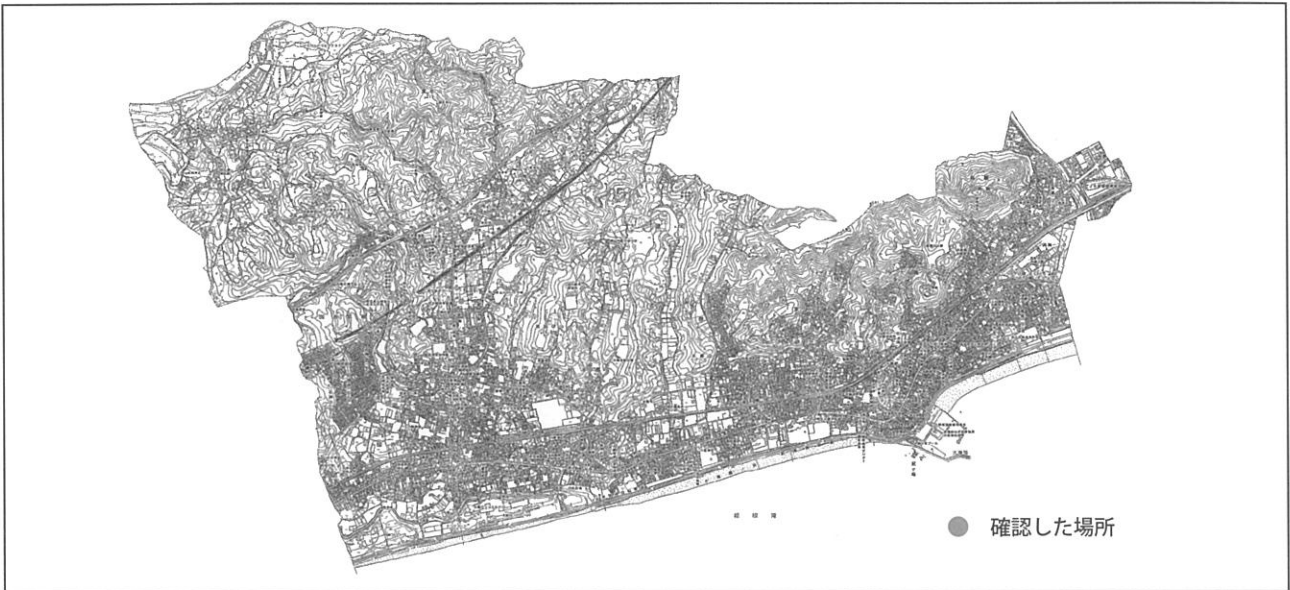


図 15 アメリカセンダングサの分布



図 16 コセンダングサ (アイノコセンダングサを含む) の分布

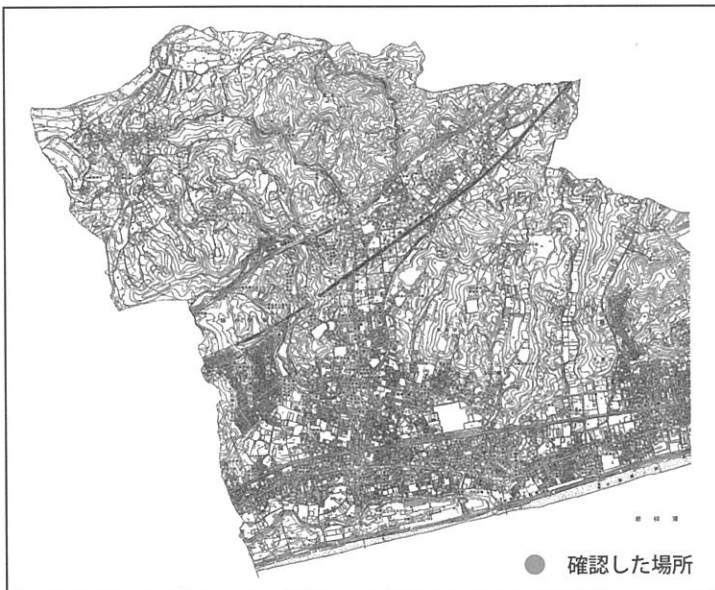


図 17 コシロノセンダングサの分布



図 18 センダングサの分布

表1 展示した秋の花の写真リスト

No.	種名・品種名	撮影日	撮影場所	撮影者	No.	種名・品種名	撮影日	撮影場所	撮影者
1	アツバキミガヨラン	10月14日	虫窪		37	チャ	9月29日	西久保	
2	アメリカセンダングサ	9月29日	虫窪		38	ツユクサ	9月29日	虫窪	吉川 武士
3	アメリカネナシカズラ	8月19日	大磯	川瀬 和江	39	ツリガネニンジン	9月22日	大磯	
4	アレチウリ	9月8日	高麗	宮原 恒雄	40	ツリフネソウ	9月29日	虫窪	
5	イシミカワ	10月6日	月京	内山 千代子	41	ツルボ	9月29日	西久保	
6	イタドリ	9月30日	高麗	宮原 恒雄	42	ツワブキ	(未詳)	大磯	安永 一夫
7	イチビ	8月29日	国府本郷		43	ナンバンギセル	9月26日	大磯	飯田 福信
8	イヌキクイモ	9月30日	高麗	宮原 恒雄	44	ナンバンハコベ	9月1日	国府本郷	内山 千代子
9	イヌホオズキ	9月30日	高麗	宮原 恒雄	45	ヌスビトハギ	8月29日	西小磯	
10	エビヅル	9月29日	虫窪	宮原 恒雄	46	ノカンゾウ	9月	月京	簗島 淳子
11	オオバクサフジ	(未詳)	大磯	安永 一夫	47	ノダケ	9月22日	大磯	
12	オオブタクサ	8月25日	西小磯	宮原 恒雄	48	ハナカタバミ	9月30日	高麗	宮原 恒雄
13	オシロイバナ	8月25日	国府本郷		49	ハマゴウ	10月	西小磯	簗島 淳子
14	オトコエシ	9月22日	大磯		50	ヒガンバナ	9月29日	虫窪	
15	オミナエシ	(未詳)	東小磯	外川 敏子	51	ヒキオコシ	10月26日	東小磯	鈴木 昭夫
16	オモダカ	8月25日	西小磯		52	ヒヨドリジョウゴ	9月22日	大磯	保坂 匠
17	ガガイモ	8月19日	大磯	川瀬 和江	53	フジバカマ	10月27日	生沢	鈴木 昭夫
18	カゴノキ	9月27日	西小磯	内山 千代子	54	ベニバナボロギク	9月7日	西小磯	内山 千代子
19	カラスウリ	8月22日	生沢		55	ホシアサガオ	9月30日	高麗	宮原 恒雄
20	キツタ	(未詳)	大磯	安永 一夫	56	ホソバアキノノゲシ	10月14日	西小磯	
21	キツネノカミソリ	8月22日	高麗		57	マツバボタン	(未詳)	東小磯	外川 敏子
22	キンコジカ	8月20日	高麗	川瀬 和江	58	ママコノシリヌグイ	9月8日	高麗	宮原 恒雄
23	クコ	9月16日	国府新宿	吉川 武士	59	マメアサガオ	9月29日	西久保	加藤 喜規
24	クサギ	8月25日	西小磯	宮原 恒雄	60	マルバハギ	9月29日	虫窪	
25	クサノオウ	9月29日	虫窪		61	マルバフジバカマ	9月29日	虫窪	
26	クズ	9月16日	国府新宿	吉川 武士	62	マルバルコウ	9月29日	虫窪	宮原 恒雄
27	ゲンノショウコ	9月29日	虫窪	宮原 恒雄	63	ムラサキツメクサ	9月30日	高麗	宮原 恒雄
28	コシロノセンダングサ	10月14日	西小磯		64	ヤクシソウ	(未詳)	大磯	安永 一夫
29	ジュズダマ	8月25日	西小磯	宮原 恒雄	65	ヤブカラシ	9月8日	高麗	宮原 恒雄
30	シロバナマンジュシャゲ	(未詳)	大磯	安永 一夫	66	ヤブタバコ	9月29日	高麗	宮原 恒雄
31	ススキ	9月27日	国府新宿	吉川 武士	67	ヤブマメ	(未詳)	大磯	安永 一夫
32	セイトカアワダチソウ	(未詳)	大磯	安永 一夫	68	ヤマノイモ	8月29日	西小磯	
33	センダングサ	9月26日	東小磯		69	ヨウシュヤマゴボウ	8月29日	西小磯	
34	センニンソウ	8月25日	国府本郷		70	ヨモギ	(未詳)	大磯	安永 一夫
35	タイワンホトトギス	(未詳)	大磯	安永 一夫	71	ラセイトソウ	10月	虫窪	簗島 淳子
36	チカラシバ	9月30日	高麗	宮原 恒雄					

表2 展示した果実の写真リスト

No.	種名・品種名	撮影日	撮影場所	撮影者	No.	種名・品種名	撮影日	撮影場所	撮影者
1	イチビ	10月3日	月京	内山 千代子	7	センニンソウ	9月29日	虫窪	保坂 匠
2	イヌマキ	10月16日	月京	内山 千代子	8	トベラ	(未詳)	大磯	安永 一夫
3	オニグルミ	9月8日	高麗	宮原 恒雄	9	ナンバンハコベ	9月30日	国府本郷	内山 千代子
4	カシワ	9月26日	国府新宿	内山 千代子	10	ノブドウ	9月30日	高麗	宮原 恒雄
5	カラスウリ	10月14日	西小磯		11	ハマゴウ	10月	西小磯	簗島 淳子
6	クコ	10月3日	月京	内山 千代子	12	ヨウシュヤマゴボウ	9月30日	高麗	宮原 恒雄

「撮影者」欄の未記載のものは、展示担当の北水 慶一が撮影したもの

3. 学習参考資料展『みんなで調べた 大磯町の花と実 2012・秋』の開催

調査は11月6日までであったが、調査が完了する17日前の10月20日から学習参考資料展を開催した。学習参考資料展という展示名称にしたのは、小学校理科「生き物のくらし(3)秋の自然」、中学校理科の「植物の世界」の学習に合わせた展示内容にしたことによる。

展示の準備は、調査に参加された方々にもご協力いただいた。10月13日、10月16日、10月17日の3日間で、調査結果の集計として、種類ごとに地図の確認地点に丸いシールを貼る作業を行なった。

展示の構成は、「秋の七草の分布」、「キク科 センダングサ属の植物の分布」、「調査会で選んだ秋の草花の分布」という項目別にあげた植物の分布状況を地図で紹介するとともに調査期間に確認した秋の花、果実の写真を紹介するものであった。秋の花、果実の写真の展示とは、立秋(8月7日)から立冬の前日(11月6日)までの期間に大磯町内で撮影された花、果実の写真を展示するものであり、調査に参加された方はもちろんのこと、チラシや展示を見られた一般の方からもご提供いただいた。最終的に当館職員を含めて12人の方々からご提供いただいた。会期中に徐々に手を加え、学習参考資料展初日の写真の展示枚数は56枚であったが、最終的に71枚となった。展示した写真の一覧を表1、2に紹介する。

4. まとめ

昨年度、一昨年度に春の植物、夏の植物の分布調査を実施し、要領を得た中で、秋の植物の分布調査を行なった。調査員のメンバー構成は大きく変わることはなく、これまでと同じ担当地域を受け持っていた。

ガイダンスでは対象とする植物の選定について、活発な意見交換が展開され、調査参加者の多くが本町のどこに特徴的な植物が見られるかよくご存知であることを理解するとともに、各々がイメージする秋の植物の種類について若干の違いがあることが分かった。調査者が事前に植物の分布情報を得ていたことで効率的に調査を進められたのではないかと考えた。

調査においては、センダングサ属の植物の同定に関する知識の習得が課題であり、アイノコセンダングサとコセンダングサをはっきりと見分ける必要があると感じられた。反面、以前に当館の主催行事として実施した秋の植物の分布調査で確認できなかったセンダングサとオミナエシが今回の調査で確認できたことは大きな成果であったと考えている。センダングサ、オミナエシについては今後の株数の推移を追っていきたい。



図19 展示風景

また、展示企画においては、前回、前々回ともに実物の資料が少ないことが課題であった。今回の展示では果実の実物を展示して、資料が写真パネルだけにならないように配慮した。こうしたことで変化のある展示に結びつけることができたのではないかと考えている。

春、夏の植物調査を含めていえることだが、参加していただいている方々のご尽力により町内全域を網羅した調査ができています。参加された方々のご理解なくしては調査、展示ともに充実したものができなかったと思われる。最後に調査及び展示準備にご協力いただいた方の名前を記して、感謝申し上げます。

鶴飼レイ子・内山千代子・大久保恵美子・大久保武・小野恵子・加藤喜規・川原一恵・菊池なつみ・小山由雄・鈴木昭夫・外川敏子・中村ふぢ・畠山恵子・曳野義子・平島靖士・布施鈴子・保坂匠・松島まり子・簗島淳子・宮川紀子・宮原恒雄・村上敦子・村田愈子・柳田利幸・柳田道雄・吉川武士 (敬称略)

5. 参考文献

- 神奈川県植物誌調査会編(2001)『神奈川県植物誌 2001』神奈川県立生命の星・地球博物館
- 北水慶一(2013)「講座『みんなで町の自然を調べよう～夏の七草の分布しらべ～』および学習参考資料展『みんなで調べた今夏の大磯町の花』の実施報告」『大磯町郷土資料館年報—平成23年度—』大磯町郷土資料館
- 自然環境保全センター(2002)『第6回 緑の国勢調査 身近な生きもの調査 2000-2001 身近な林調査結果』環境省自然環境局生物多様性センター 図鑑』講談社
- 高橋秀男監修(2000)『山野草ガイドブック』永岡書店
- 林弥栄ほか監修(2003)『野草 見分けのポイント 図鑑』講談社